「東北の山旅でもらった若者の力」

今年の３月に退職し、夏になって念願だった東北地方の山旅へ車にテントを積んで出かけた。山形の月山や鳥海山、青森の八甲田山、岩手の八幡平を回って宮城の蔵王山にも登った。この頂上近くではコマクサの群生を見ることもできた。すると下山中にこの旅最大の危機がやってきた。途中で道が分からなくなったのだ。スマホの地図アプリを見るとそれほど登山道から外れてはいないし、下には駐車場も見えていたので道らしい所を選んで下って行った。すると徐々に道がなくなり、いわゆる「やぶこぎ」になった。熊笹の斜面を泳ぐようにして横に動くとやっと登山道に出てほっとしたが、その時ポケットに入れておいたスマホが無くなっていることに気付いた。青くなって「最初から探そう」と上に登ると、私が道を間違えた所で3人の若者も迷っていた。正しい道を教えながらスマホを探していることを告げると、「電話をかけてみましょうか？」と若者が言った。「その手があったか」と、私のスマホに電話をかけてもらったが広い山の中、何も聞こえない。何回かかけた時「あっちだ」「めっちゃ聞こえる」とは若者たちの言葉。私にはまったく聞こえない着信音が若者たちにはよく聞こえるのだ。音を頼りに若者が熊笹の中を突進して見事に私のスマホを見つけてくれた。若者たちの機転と親切心、行動力、そして耳の聞こえの良さに感服した出来事だった。この蔵王山での危機を乗り越え、退職記念のテント14泊東北の山旅は無事に熊本まで戻ることができて楽しい思い出となった。